

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 3 回 助成期間：平成 18年11月1日～平成 19年10月31日

テーマ：人や自然と豊かにかかわり、主体的に学び合う子の育成

氏名：加納 多嘉美 所属：下永谷小学校

1. 課題の主旨

学区のほぼ全域が住宅街である横浜市内の小学校で、子どもたちが豊かな自然体験を積み重ねることができ、場を校庭内に作り出してきた。その活動は10年間にわたり校庭には自然観察の場、飼育・栽培の場・環境保全実践の場が生み出されてきた。下永谷小学校では、そのような自然体験や環境学習が可能な場所としての校庭をそこでの活動とあわせて「校庭しぜん体験博物館」という名称を付けて呼んでいる。

この「校庭しぜん体験博物館」での全校の実践を地域活動や地域組織とも関連させて、全校で共通に取り組む学校教育の柱としていくために、「校庭しぜん体験博物館を活用した環境教育カリキュラム」を作成し、授業実践と結びつけたカリキュラムを仕上げ、普及啓発に努めることにより、都市部の学校で自然体験活動が十分にでき、地域と連携し合う中で、子どもたちが学ぶ力を付ける基礎となることを実証したい。

2. 準備

①新しく着任した職員にも今までの学校の取り組みがよくわかり、そして今後に見通しがもてるよう、校庭しぜん体験博物館の活用例などを説明する職員研修を4月初めにおこなった。

②4月にSSC(下永谷小 卒業生クラブ)総会をおこない、18年度の活動報告、収支報告をおこなった。また、今年度の活動をどのように進めていくか話し合った。

3. 指導方法

貴重な自然環境である「校庭しぜん体験博物館」を利用し身近な自然や人とふれあう体験的な学習を大切に授業づくりを行っている。

また、卒業生クラブに加盟している約50名と在校生約800名を対象にした活動も行っている。軸となっている高校生、大学生がやりたいことを主体的に考え、教師はアドバイザー的な立場で活動している。卒業生クラブのメンバーが考えたイベントに小学生児童が来たときには、小学生児童をリードしたりサポートしたりする立場のものもある。そうした活動を通して、若者たちが、次世代のリーダーとしての資質を培っていく場を提供している。

4. 実践内容

○ 横浜市環境教育の指針の環境教育の内容をもとに、本校の環境教育の内容を検討し、環境教育全体計画を作成した。<19年度の全体計画:別紙資料参照>

○ 学年指導計画をもとに、本校の環境教育の内容の視点から関連している各教科等や単元を洗い出し、活動を見通した一覧表を作成した。各教科等で環境教育と関連して指導できる単元や学習内容を検討し、授業実践に取り組んだ。

○ 貴重な自然環境である校庭の「校庭しぜん体験博物館」を利用し、子どもたちは身近な自然や人とふれあう体験的な学習を大切に「楽しい」「わかる」授業づくりを続け、教師と子どもが共に学びをつくってきた。子どもと教師の「手作りの環境づくり」が、地域やPTA 活動、さらには木の実クラブや下永谷小学校卒業生クラブなどのネットワークに広がり、「人や自然にやさしい」学校づくりに発展している。

校庭しぜん体験博物館を活用した各学年の学習活動を簡単に紹介すると、5・6組では、いろいろな野菜や花を育て、宿泊体験学習では、下小の畑で収穫したじゃがいもでカレー作りをして食べた。

1年では、学校探検などを通して、校庭の季節ごとの自然や生き物と、五感を通して十分に触れあう活動を展開している。2年では、学校探検の時にそよ風の散歩道で見つけたカントウタンポポの綿毛を育て、生活科口

ードにタンポポ畑ができた。プール開き前にヤゴを救出して教室で飼育しトンボにかえした。3年では、地域の方からお花の育て方を教わりながら、虫が集まり花いっぱいになる学習に取り組んでいる。4年では、体験学習で、下小の畑で育てたジャガイモを野外炊飯でカレーに入れて食べたり、年間を通して、校庭の木や植物を観察したりしている。5年では、6年生から受け継いだ下小米を種もみから大事に育て米作りに取り組み、田んぼを通して、生き物の命がつながっていることを学んでいる。6年生では、ホタルの幼虫をふれあい水辺に放した。下永谷小学校卒業生クラブの先輩に教えてもらいながら港南区のヘイケボタルを守るため、水辺の保全に取り組んでいる。かいぼりをするのと同時に水辺の面積を広げ、生き物にとってさらに住みやすい水辺を目指しながら水辺づくりをおこなっている。

- 実践した内容を学校・学年便り、学校ホームページで知らせたり、授業公開で紹介したりするなど、環境行動への意識を全校や地域に発信し、普及啓発に努めた。

5. 成果・効果

- 年間を通して、この「校庭しぜん体験博物館」を生かした体験的な学習が、各教科等の学習内容を豊かにしている。環境教育全体計画を作成し、学年ごとの環境教育の内容を一覧にすることで、各学年の子どもの姿や小学校の発達段に応じた子どもの姿が見られ、環境教育の学習内容がより明確になった。
- 手づくりの学習環境や地域の人材を活用した体験的な学習を大切にする授業を実践することで、子どもの興味関心が高まり、主体的な活動が見られた。学習活動を積み重ねていくことで、学年間の交流が自然とでき、相手意識をもつことによって、自分たちの目的がはっきりしたり、意欲をもった活動となったりしている。さらに、「来年はこういう活動ができるんだ」と子どもが見通しをもつこともできた。
- 木の実クラブの方をはじめ地域の方と連携した活動が増えてきたことによって、学習が深まり、広がっていった。また身近な地域の方とのふれあいから、子どもたちが地域への愛着をもつようになった。
- 環境ディでのことや授業実践した内容を学校・学年だより、学校ホームページで知らせたり、授業公開で紹介したりするなど、環境への意識を全校や地域に発信し、広めることができた。

6. 所感

学校、子ども、地域が連携した活動を積み重ねていくごとに活動は活性化され、さらに充実した活動ができるようになってきた。今後も地域の協力、理解をえながら「ひとや自然と豊かにかかわり、主体的に学びあう子の育成」にむけた実践を続けていきたい。

7. 今後の課題や発展性について

- 環境教育を基盤とした教育課程の編成と学習環境の整備を進めた教育活動の実践の充実をさらに、図っていく。「校庭しぜん体験博物館」など手づくりの学習環境や地域を活用した体験的な学習が活発に展開されることで、よりよい環境づくりを実践する子を育てることができると考える。環境教育の内容一覧表をもとに授業の実践を検証していき、人や自然と豊かにかかわり主体的に学び合う子の育成をめざしていきたい。
- 木の実クラブ人材マップの活用、校庭しぜん体験博物館の活用マップ、植物暦を活用し、学校と地域や民間団体との相互の協力体制を整え、実践に生かしていく。
- 環境教育の成果として省資源やリサイクルを積極的に実践していく態度や、豊かに人とのかかわりあいながら健康的に生活していこうとする子どもたちの意欲を高めるようにしていく。学校・家庭・地域が連携し、環境を大切にする心をはぐくみ、学校で学んだことを日常生活で実践することを大切にしていく。

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

口頭発表

子どもエコフォーラム、横浜の水辺と緑を考える子ども会議などでの発表。(2007年3月)

掲載記事

環境教育指導資料[小学校編]国立教育政策研究所(2007年9月30日)

下永谷小学校 環境教育全体計画

学校教育目標

自己のよりよい成長を求めて自ら学び続け、豊かな感性をもち、人や自然と共にたくましく生きていく力を身につけた子を育てます。

具体目標

「人や自然にやさしい子を育てます。」

- 友だちや地域の人々との交流を深めることによって、人にやさしい子を育てます。
- 下永谷小学校「校庭しぜん体験博物館」などを活用した学習活動によって、自然にやさしい子を育てます。
- 教育課程や学習の場の設定を工夫して、生活の中から自分の問題を見つけ、それを主体的に追究しようとする子を育てます。

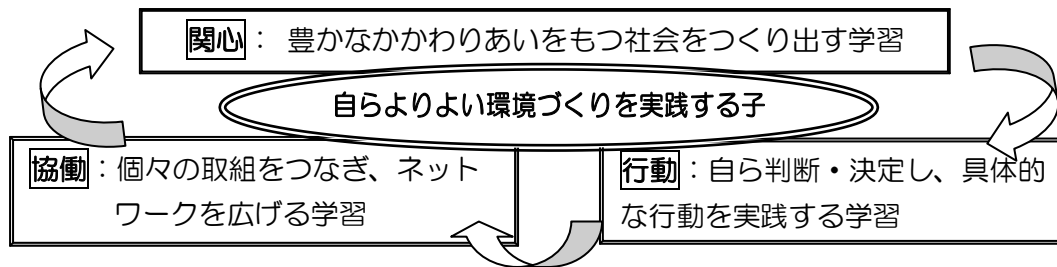
横浜市環境教育基本方針

基本理念

持続可能な社会の実現に向けて、自ら考え、具体的な行動を実践する人づくり

環境教育の目標

手づくりの学習環境や地域を活用した体験的な学習を通して、自らよりよい環境づくりを実践する子を育てる



「環境教育を基盤とした教育課程の編成と学習環境の整備」

- ・ 教師と子どもでつくる手づくりの学習環境や地域の人材を活用した体験的な学習を大切にする授業の実践。
- ・ 子どもの実態に合った問題や課題を取り上げる。
- ・ 子どもの環境に対する思いや願いを実現できるような場の設定と支援をする。
- ・ 地域や卒業生クラブ、民間団体等との相互の協力体制をつくる。
- ・ 学校で学んだことを日常生活で実践することを大切にする。

学年	子どもの姿
個別	学校や地域の人、まちや自然とかかわることを通して、自分の思いや願いをもって楽しく活動しようとする。
1年	学校や地域の人、まちや自然と進んでかかわることを通して、自分の思いや願いをもち、進んで活動しようとする。
2年	学校や地域の人、まちや自然と主体的にかかわることを通して、自分の思いや願いを実現したり、自分のよさや成長を実感したりする。
3年	学校を取り巻く自然やまちの人とのふれあいを通して、自分の考えを活動の中で明らかにし、自分なりのこだわりをもった活動に取り組もうとする。
4年	身近な自然や地域の人とかかわりを通して、自分の考えを他とかかわりの中で明らかにし、進んで地域の自然や暮らしを見直す活動に取り組もうとする。
5年	自分たちを取り巻く環境に進んでかかわることを通して、自分を取り巻く社会や自然の大切さを実感し、自分の考えの根拠を明らかにし、計画的に解決に向かった活動に取り組もうとする。
6年	自分たちを取り巻く環境に問題意識をもってかかわることを通して、互いの考えを生かし多面的に解決し、学校やまちの人に伝えたり、より豊かな環境を作り出したりする活動に取り組もうとする。

